

発生予察情報

特殊報第1号

平成16年11月2日
秋田県病虫害防除所

トマトサビダニの発生確認について

1. 発生経過

平成16年8月上旬、県北部の夏秋トマトハウスにおいて、トマト中段の茎葉の黄変が確認され、被害株が農業試験場に持ち込まれた。検鏡の結果、フシダニ類の寄生が確認されたため、独立行政法人 野菜茶業研究所に同定を依頼した結果、本県では未確認のトマトサビダニであることが判明した。

なお、本種は昭和61年沖縄県で初確認され、近年は全国的に発生が確認されている。

2. 発生状況

- 1) 病虫害名 トマトサビダニ *Aculops lycopersici*(Massee)
- 2) 発生した作物 トマト
- 3) 発生地点 県北内陸部
- 4) 被害の様相

ハウス入り口付近の連続した10株の茎葉（中段位）に変色症状がみられ、最終的に30株程度まで被害が進行した。本種は果実にも被害症状を示すとされているが、発生圃場において果実の被害はみられず、実害には至らなかった。

3. 形態および生態

- 1) 体型はくさび型で、成虫の体長は0.15～0.18mm、体幅は0.05mm、小型のため、肉眼での観察は困難（検鏡は50倍前後の実体顕微鏡を用いる）。
- 2) 体色は黄褐色
- 3) 卵は円形半透明
- 4) 高温乾燥条件を好み、最適生育条件下（26.5℃、湿度30%）では6～7日で卵から成虫になる（成虫→卵→1齢若虫→2齢若虫→成虫）。
- 5) 雌成虫は、葉裏に50個程度の卵を産む。
- 6) 休眠性はなく、低温に弱い。氷点下では数時間～数日で死滅する。野外では越冬できない。

4. 防除対策

- 1) 苗の購入にあたっては、寄生の有無を十分確認し、ハウス内への侵入を防ぐ。
- 2) 本虫に有効な薬剤（表－1）を葉裏にも十分かかるように丁寧に散布する。
- 3) 高温・乾燥条件で発生しやすいので、ハウス内の過乾燥に注意する。
- 4) 衣服などに付着して移動するので、発生しているハウスの作業は後回しにする。
- 5) ハウス内や周辺部の除草を徹底する。
- 6) 発生作物や収穫残渣は圃場内に残さず処分する。
- 7) 減農薬栽培等で防除圧の低い圃場は発生しやすくなるので、上記の耕種的防除に努める。

5. 参考資料

表－1 本種に登録のある薬剤の一覧

商品名	作物名称	希釈倍数・使用量	散布液量	使用時期	総使用回数
アフーム乳剤	トマト ミニトマト	2000倍	150～300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内
コテツフロアブル					
マイトコーネフロアブル		1000倍			1回
マッチ乳剤	トマト	2000倍	100～300リットル/10a		4回以内
オサダンフロアブル					1回
コロマイト乳剤		1500倍	150～300リットル/10a		2回以内
サンマイトフロアブル					



写真－1 寄生により茎や葉柄部が変色

【問い合わせ先】

秋田県病害虫防除所 018(860)3420
 秋田県農業試験場 018(881)3326
 掲載HP <http://www.pref.akita.jp/nosaneng/bojo/>